

大通公園を望む窓辺から

5年の短い人生を生き抜いた 幼児のこころの叫び

常任理事 橋本 洋一

「ママ もうパパとママにいわれなくても
しっかりじぶんから きょうよりか あした
はもっともっと できるようにするから も
う おねがい ゆるして ゆるしてください
おねがいします」

2018年6月、東京都目黒区で児童虐待死
事件があった。

5歳の女の子の悲痛なこころの叫びとも
いえる文章に目に涙がじわっとあふれる。

義理の父親は5歳のYちゃんに、朝4時
に起きて平仮名の書き取りの練習を強要
し、素直に従って、自分で目覚まし時計を
セットして起床し、平仮名の練習をして
いたという。食事でも満足に与えられず衰弱
していく我が子を母親はどういう気持ちで
見続けていたのでしょうか？これは決して赤
い血の通った人間のなせる業ではない。ま
さに畜生にも劣る許されざる犯罪なのだ。

Yちゃんの虐待死事件の発覚を受けて、
児童相談所に配置されている児童福祉司の
数が約2千人増員されることとなった。5
歳の女の子のいのちと引き替えに、よう
やくこういった措置が取られることになっ
た。SOSを発している子供たちの数は相当
いることが類推される。

危険閾値を下げて、虐待の疑いがあれば
すぐに介入するといった対応を取らない限
り、今後も同種の事件が起きる可能性が高
い。児童相談所の数が絶対的に不足し、劣
悪な環境に置かれていると言われているが、
我々医療人は、虐待を早期に見つけて、
かけがえのない子供たちのいのちを守る気
概を持つことが求められている。

わずか5年間の短い人生を必死に生き抜
いたYちゃんのことを決して忘れないと誓
うとともに、こころからご冥福をお祈り
いたします。安らかにやすみください。

合掌。

蜃気楼の街、小樽

理事 阿久津光之

小樽は春から初夏にかけて蜃気楼を見る
ことができる街です。この時期は陸地の気
温が高くなる一方で、石狩湾の海面温度は
陸地の気温に比べ低い状態となる「上暖下
冷」の空気層を通る光がその境界で屈折す
ることにより、対岸の石狩湾で上位蜃気楼
が発生する可能性が高くなるとされてお
ります。今年も5月の気温が高い日に蜃気
楼が発生しております。この蜃気楼を記し
た最も古い文献「西蝦夷日誌」の著者が
北海道を命名した松浦武四郎であります。
1846年に2回目の蝦夷地探査の際に、小
樽沖を航行中に塩谷の海上に来たところ船
の案内人が「今日は高島のオバケ（小樽高
島地区の地名をとり“高島おばけ”と呼ば
れていた）が出る。あれを見なさい」と、彼
方の岬を指して教えてくれた。すると小さ
な点のような島と思えた岩礁が大きくなり、
遠くから来た船のむしろの帆がとても
豪華な錦の垂れ布に変わり、彼方の小さ
な家のような漁屋は宮殿楼閣のようで、
珊瑚・瑠璃の屋根に黄金白銀の梁のよう
に見え、眺めている間に、西風が一吹き
し消えてしまった様子を記載されており、
大きな蜃気楼に出合ったことに感動した
ようでした。この現象に関して、松浦武
四郎は故郷伊勢の桑名や全国各地を歴
訪し経験しており、蜃気楼であったこと
をすでに理解していたようです（当時浮
世絵にも蜃気楼が描かれています）。

現在小樽は、年間800万人を越える観
光都市となっております。お時間に余裕
のある方は、5月の天気が良く気温が
比較的高い日に、ドライブにて小樽の街
に来られる機会があれば、運河を通り
抜け高台の手宮公園（桜の名所）から
石狩湾を眺めると蜃気楼に出合えるこ
とがあります。小樽観光の新たな一面
を堪能するのも悪くはないと思いき
ますが如何でしょうか。

